



和歌七部之抄

乙体如款

主

伊地知文庫  
文庫20  
292  
2





文庫  
292  
2

三



三體和歌

建仁二年三月廿一日

伊地知氏書冊

講所  
讀所

定家朝臣

春其ゆくあはれ

古宵金指

秋冬くひりく

細唐

急旅整よきく

未歌

以神の常の事と定めし海の河のそと一  
一具は夏之此一部集字千二首其公那那

三體和歌



院然為家初以大樞註付侍先賢意趣還之  
屬塵芥也

去

九馬臥洛原親定

鷹之常世花のいろれん月をうつゝあけはれ  
け歌は去のよこしくゆくゆきと人たふた余情あり  
て清く月をまゝ花の越ちやとつととわたり  
其心いこころしゆりまうはな海よりとよとよ  
常世花のいろれん花かりいろくまぬいふ  
月とこよ世<sup>せう</sup>界とあまの光なりとけ世<sup>せう</sup>界

花中うつくしめては満<sup>まん</sup>是をぬとつとく  
あゝぬ方<sup>かた</sup>まてとわたりとく一色也  
事そよみれゆくとて神<sup>かみ</sup>まうくうあう

夏

夏夜の長路原 三秋の風は花柳をかりたは花  
是は夏夜の涼 三秋の風は花柳をかりたは花  
あゝぬ方<sup>かた</sup>まてとわたりとく一色也  
事そよみれゆくとて神<sup>かみ</sup>まうくうあう  
あゝぬ方<sup>かた</sup>まてとわたりとく一色也  
事そよみれゆくとて神<sup>かみ</sup>まうくうあう  
あゝぬ方<sup>かた</sup>まてとわたりとく一色也  
事そよみれゆくとて神<sup>かみ</sup>まうくうあう

三秋の風

二



こ敷文方は風涼し〜きたさう〜秋の心〜  
あつたは清階のり〜に掃らう〜あつたれん〜  
の暮るはあつた〜さう〜あつた〜

始

三つ〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹

よあつた〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹

神の米あつた〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹  
てゆる〜秋のま〜長月の有明の月〜秋風吹

三神

五



わびのうまのまゝのませぬとてありていとよ  
く義一天世界よ沙衣とありていとありて  
らぶるひのいとまじと神のまことと歌のいと  
東の月と海の水とて歌のいと海の水と  
恋

色の世に  
たしはて  
あはれ  
そふく  
いふ世をいふとては浦風よころの娘のびりて  
り舞いひらけしなりていとありていとありて  
あまの海をへたる歌とていとありていとありて  
しら月影のいとありていとありていとありて

うらたの物よいとありていとありていとありて  
とありていとありていとありていとありて  
字形よとていとありていとありていとありて  
いとありていとありていとありていとありて  
とありていとありていとありていとありて  
いとありていとありていとありていとありて  
いとありていとありていとありていとありて  
いとありていとありていとありていとありて

恋  
あまのうらたの物よいとありていとありて  
とありていとありていとありていとありて  
いとありていとありていとありていとありて



あゝぬまをひくればとせわすまをたはす  
よふまゝもろくもろくもろくぬまをひくまゝ  
つゞく月や河ぬと流るゝまゝの衣さうは秋  
と月をあゝぬの二首とさうして流るゝよ秋  
乞ふまをれん秋も月を流るゝと流るゝ  
あゝぬまをひくぬ月を流るゝと流るゝ  
月やあゝぬと河さうと流るゝ

たの良辰

長流わつとさうとまをたはすぬまをたはす  
是のゆゑぬまをひくまゝと流るゝと流るゝ

源氏物語  
あゝぬまをひく  
よふまゝもろくもろくもろく  
つゞく月や河ぬと流るゝ  
と月をあゝぬの二首とさうして  
乞ふまをれん秋も月を流るゝ  
あゝぬまをひくぬ月を流るゝ  
月やあゝぬと河さうと流るゝ

あゝぬまをひくればとせわすまをたはす  
よふまゝもろくもろくもろくぬまをひくまゝ  
つゞく月や河ぬと流るゝまゝの衣さうは秋  
と月をあゝぬの二首とさうして流るゝよ秋  
乞ふまをれん秋も月を流るゝと流るゝ  
あゝぬまをひくぬ月を流るゝと流るゝ  
月やあゝぬと河さうと流るゝ











多しと人し何んぬんきつと侍る身と  
 雨より花のい物かしりて打も旅も思  
 ずし多しと人し何んぬんきつと侍る身と  
 旅宿しりて月を思て氣も作中しゆ  
 多しと人し何んぬんきつと侍る身と

兼大僧正意

花の河花のきしりてさるる花のいれ月もさるる  
 是の余情のきしりて河上めきた花のきしりて  
 さるる花のきしりて水のとさるる花のきしりて  
 さるる花のきしりて月もさるる花のきしりて

花の河花のきしりてさるる花のいれ月もさるる  
 是の余情のきしりて河上めきた花のきしりて  
 さるる花のきしりて水のとさるる花のきしりて  
 さるる花のきしりて月もさるる花のきしりて

花の河花のきしりてさるる花のいれ月もさるる  
 是の余情のきしりて河上めきた花のきしりて  
 さるる花のきしりて水のとさるる花のきしりて  
 さるる花のきしりて月もさるる花のきしりて







一しては...  
...の...  
...  
...  
...  
...

神の...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

藤原定家朝臣

花盛...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

五月...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...



あしあしとあつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
中子時鳥のうらとあつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
又流と流とあつちかへんかぬん流と流とあつちかへん

霜のうらとあつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
小田のうらとあつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん

流のうらとあつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん

あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん

あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん  
あつちかへんかぬん流と流とあつちかへん







かゝるるつとぬり

上総舟屋港

振花散ひくも心久望れ中井より春のやれ  
是は花ちりりひくく久方れは舟屋もかきう  
まはれ風と舞一色よ吹くぬをと月れぬ  
くをよ云はくをうー大なる旅歌く  
ちりり散るる  
まはれ風と舞  
くをよ云はくを  
大なる旅歌

うあう

鳥羽に舟の想しし是安の心郭一色よ  
舟鳥のや一色よ夜の明あつひの心  
清く是の心うらうらくとわくちうらうら

あれくつうらうらうらうらうら  
ハ○是れ舟の想しし是安の時鳥啼一色よ  
舟と心郭一色よ舟と心郭一色よ  
舟と心郭一色よ

是れ舟の想しし是安の時鳥啼一色よ  
是れ舟の想しし是安の時鳥啼一色よ  
是れ舟の想しし是安の時鳥啼一色よ  
是れ舟の想しし是安の時鳥啼一色よ  
是れ舟の想しし是安の時鳥啼一色よ  
是れ舟の想しし是安の時鳥啼一色よ  
是れ舟の想しし是安の時鳥啼一色よ  
是れ舟の想しし是安の時鳥啼一色よ



とくとおの萩の土風とよぬ人との家を作有れ物  
とらして長感侍り  
ちんこえ

海つて身を神せりるらん時ぬまの音羽の月  
わり明の月のかさくまそて晴是れわりのそ  
とぬぬの月ぬの身なう神せり福うあらん  
と清りも長女のぬかきとらひきそんかんと  
と晴と早とらぬ月物ありとらひき  
物と煙をきして神の早とらうかきとらひき  
方よるれんはくとおの萩の月のかさくまそ  
所ん月うもぬと我も長とらひき

月と我神れりるかきとらひきとらひきとらひき  
とらひき

かきあぬ名おとらひきとらひきとらひきとらひき  
是れいそとらひきとらひきとらひきとらひき  
とらひきとらひきとらひきとらひきとらひき  
とらひきとらひきとらひきとらひきとらひき  
とらひきとらひきとらひきとらひきとらひき  
とらひきとらひきとらひきとらひきとらひき  
とらひきとらひきとらひきとらひきとらひき  
とらひきとらひきとらひきとらひきとらひき  
とらひきとらひきとらひきとらひきとらひき  
とらひきとらひきとらひきとらひきとらひき







やちれ月をそなたの時鳥の一都啼 木のちを  
きくいづれをさしやと 待り今一巻をそと  
わすれよみし待りよと家降つれ歌 相似  
あつらふらふいづれよ月をらあつらふ一巻其意気  
ありて

新曲のまよと ぬれ月を時鳥れやと  
月よとぬれよと けしきと 待りよと  
月のねをよと ぬれ月を時鳥れやと  
あつらふらふいづれよ月をらあつらふ一巻其意気  
ありて

遊あそび かの家をまよとぬれ月を時鳥れやと  
待り

山人の道れまよとぬれ月を時鳥れやと  
あつらふらふいづれよ月をらあつらふ一巻其意気  
ありて

あつらふらふいづれよ月をらあつらふ一巻其意気  
ありて



あまのつゆのいづるのほろほろと  
なまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと

あまのつゆのいづるのほろほろと  
なまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと

あまのつゆのいづるのほろほろと  
なまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと  
あまのつゆのいづるのほろほろと











くむ思ぬるを成思ふは切なるおもしろき思ふこと  
うしそりなきを公切の歌少く侍る人こそ

藤原の院は別より志は違ふこそそのまゝ誠は  
是を都とて事家ありこそその神よりま  
たの意はけりけりけりけり言誠はまことあり  
たりよは侍りけりけりけり言侍りけりけり  
くありけりけり高流とて此歌の心なること  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
公喜むる事ありけり

大方はかみく伊能事とて才人侍るれ  
中とて云體の歌をこそけりけりけりけり  
と公とけりけりけりけりけりけりけり  
くも忘れけりけりけり愚眼れけりけり  
一也けりけりけりけりけりけりけりけり  
程とてけりけりけりけりけりけりけり  
才人ありけりけりけりけりけりけり  
一夜の三體のらぬらけりけりけりけり  
め路よりけりけりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけり



想ふこときつぬまかきり有るをかゝる  
 物されしは終りなきのあはれに河とそ  
 けのこや申さそそのらうもらうらうらう  
 道にどぬの終れきうううううううう  
 先わの海れぬううううううううう  
 ううううううううううううううう  
 歩の浦まを舟人のや身ふめれううう  
 ううううううううううううううう  
 ううううううううううううううう  
 ううううううううううううううう

味  
 味有掃園の家可考むらううう



